2025年9月12日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

海外派遣留学(2023 年度出発)による学生の能力及び行動特性の変化について

一橋大学では, 海外の協定校に派遣留学をした学生を対象として, JAOS（海外留学協議会）が提供する『留学アセスメントテスト』を利用して，派遣留学により「グローバル環境で必要とされる能力の変化」と「行動特性の変化」を把握している．今回の分析対象者は，2023 年度に留学を開始した 119 名のうち，留学前後のテストに回答した 116 名（2023 年夏出発 106 名，2023 年冬出発 10 名：回答率 97.48%）である．回答者の所属学部内訳は，商学部 37 名，経済学部 22 名，法学部 20 名，社会学部 31 名，大学院生 6 名であり，学年は 3 年生 92 名，4 年生 18 名，修士 1 年生 2 名，修士 2 年生 4 名，性別は女性 57 名，男性 59 名であった．なお，回答者 116 名のうち 8 名は一橋大学に既に留学生として在籍している学生を更に海外に派遣している．回答者の派遣留学前の平均 GPA（自己報告のあった 115 名分）は 3.59（標準偏差 0.31, 最小値 2.00, 最大値 4.10 ）, 派遣留学前の英語能力については, IELTS の受験歴がある 67 名の平均スコア 6.71（標準偏差 0.59，最小値 6.0，最大値 8.0），TOEFL IBT の受験歴がある 54 名の平均スコア 93.69（標準偏差 10.33，最小値 69，最大値 119）であった．

派遣留学先を表 1 に示す．回答者の 46%程度がアメリカやイギリスといった英語圏にある大学，43%程度が欧州の大学であり，アジアの大学は 10%程度、南米の大学は 1%未満に留まっている．表 2 は留学を通して向上を期待する外国語とそのスキルに関する（複数）回答で，ほぼ全員（96.55）が英語の向上を期待し，特に向上を期待するスキルはスピーキング（96.55%）およびリスニング（62.93%）であった．表 3 で回答者の過去の外国滞在経験とその主な目的をみると， 47%程度が過去に一か月以上の海外滞在経験があり, そのおよそ 4 割は「親の仕事」による海外滞在、2 割は本学での語学・文化研修であり, 交換留学や単位取得を伴う留学も 1 割程度存在した．

表 4，表 5 と図 1，図 2 には，派遣留学前後の『留学アセスメントテスト』の平均値（M）および標準偏差（SD）と，平均の差が有意であるかについての t 検定の結果を示している．なお，表中の Cohen d 列に示した効果量は，0.8 以上であれば大きな変化，0.5 から 0.8 は中程度，0.2 以下は小さな変化を意味する．Cohen d 効果量はいずれも 0.5 を下回り，非常に大きな変化であるとはいえないものの，表 4 および図 1 に示される「グローバル環境で必要とされる能力」のうち，「コミュニケーション」領域における「自己開示力」・「主張力」・「プレゼンテーション力」，「問題解決能力」領域における「企画提案力」，「グローバルマインド」領域における「チャレンジ力」・「成功への熱意」，「グローバルビヘイビア」領域における「積極的質問」・「パーティシペイト」において,それぞれ統計的に有意な上昇がみられた．表 5 および図 2 に示される「行動特性の変化」については，「自己効力」の有意な向上が認められた．

また，表 6 は，留学前に目標として設定したコミュニケーション能力別に，能力の変化を示している．各コミュニケーション能力に対して，その能力を目標として設定したか否かによる留学の効果の差を検討した結果，「受容力」において，統計的に有意な効果の差が確認された．これは，留学前は「受容力」が比較的低かった学生が当該能力を目標として設定し，留学後にその学生の「受容力」が他の学生と同水準になったことなどによるものである．「受容力」に課題をもつ学生にとって派遣留学が特に効果的であったことや，事前の目標設定により，留学期間を通して能力の伸びが意識されたことなどが，要因として考えられる．

以上より，派遣留学生が留学を通じて積極的に行動する力を高め，自信を得たことが読み取れる．また，能力によっては，留学前に目標を設定することで一層の伸びが期待できる可能性も示唆された．

表 1　派遣留学先

		割合
英語圏	**合計**	46.55%
アメリカ		18.97%
イギリス		17.24%
オーストラリア		6.90%
カナダ		3.45%
ヨーロッパ	**合計**	43.10%
フランス		7.76%
ドイツ		6.90%
ベルギー		6.90%
イタリア		4.31%
デンマーク		4.31%
オランダ		3.45%
オーストリア		2.59%
スペイン		2.59%
スイス		1.72%
スウェーデン		1.72%
フィンランド		0.86%
アジア	**合計**	9.48%
香港		0.86%
韓国		2.59%
中国		2.59%
シンガポール		0.86%
台湾		0.86%
ベトナム		0.86%
マレーシア		0.86%
南米	**合計**	0.86%
ペルー		0.86%

表 2　向上を期待する外国語と外国語スキル（複数選択可）

向上を期待する外国語	**割合**
英語	96.55%
フランス語	12.93%
ドイツ語	11.21%
中国語	5.17%
韓国語	2.59%
タイ語	0.00%
スペイン語	5.17%
その他	8.62%
向上を期待する外国語	**割合**
リスニング	62.93%
スピーキング	96.55%
リーディング	31.03%
ライティング	47.41%
あてはまるものはない	0.00%

表 3　過去における 1 ヶ月以上の海外滞在経験とその主な目的

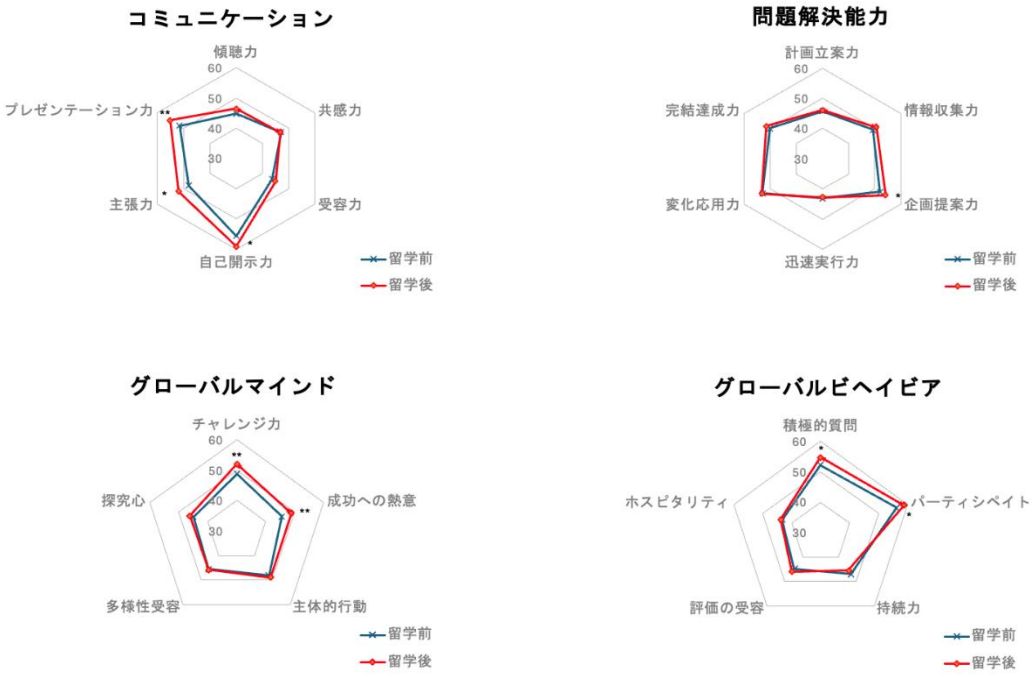
海外滞在経験	割合	海外滞在目的	割合
あり	47.41%	親の仕事	40.00%
		一橋大学の語学・文化研修	21.82%
		交換留学や単位取得を伴う留学	12.73%
		その他の語学・文化研修	7.27%
		旅行	7.27%
		学位取得を目的とした留学	3.64%
		ボランティア	1.82%
		その他	5.45%
なし	52.59%		

表 4　グローバル環境に必要とされる能力の変化

	留学前		留学後				
	M	*SD*	*M*	*SD*	*t*		Cohen *d*
傾聴力	44.73	8.91	46.45	8.22	1.53		0.20
共感力	47.15	9.84	47.05	10.01	-0.07		0.01
受容力	43.63	8.06	45.00	8.63	1.25		0.16
自己開示力	55.61	10.33	59.07	10.57	2.53	*	0.33
主張力	48.06	10.85	51.89	11.67	2.59	*	0.34
プレゼンテーション力	51.59	8.80	55.14	9.26	3.00	**	0.39
コミュニケーション平均	48.46	6.32	50.77	6.87	2.66	**	0.35
計画立案力	45.70	10.67	46.13	9.37	0.32		0.04
情報収集力	49.21	9.32	50.70	10.04	1.17		0.15
企画提案力	52.03	7.39	54.06	7.12	2.13	*	0.28
迅速実行力	43.14	8.06	42.82	8.31	-0.30		0.04
変化応用力	52.81	8.62	53.11	8.47	0.27		0.04
完結達成力	50.15	9.52	51.45	10.65	0.98		0.13
問題解決能力平均	48.84	4.32	49.71	4.41	1.52		0.20
チャレンジ力	48.78	8.26	52.04	8.29	2.99	**	0.39
成功への熱意	45.60	9.08	48.99	9.78	2.73	**	0.36
主体的行動	47.98	10.59	48.88	10.59	0.64		0.08
多様性受容	45.56	8.13	45.70	8.76	0.13		0.02
探究心	44.83	6.89	46.28	8.04	1.48		0.19
グローバルマインド平均	45.99	5.42	47.46	6.23	1.91		0.25
積極的質問	52.12	7.85	54.68	7.63	2.52	*	0.33
パーティシペイト	56.26	9.32	58.95	9.26	2.20	*	0.29
持続力	46.95	11.54	45.45	11.77	-0.97		0.13
評価の受容	44.70	8.73	45.95	8.49	1.11		0.15
ホスピタリティ	43.33	8.01	43.77	8.21	0.41		0.05
グローバルビヘイビア平均	48.67	4.29	49.76	4.48	1.89		0.25

注:　**は 1%水準, *は 5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

図 1　グローバル環境に必要とされる能力の変化を表すレーダーチャート



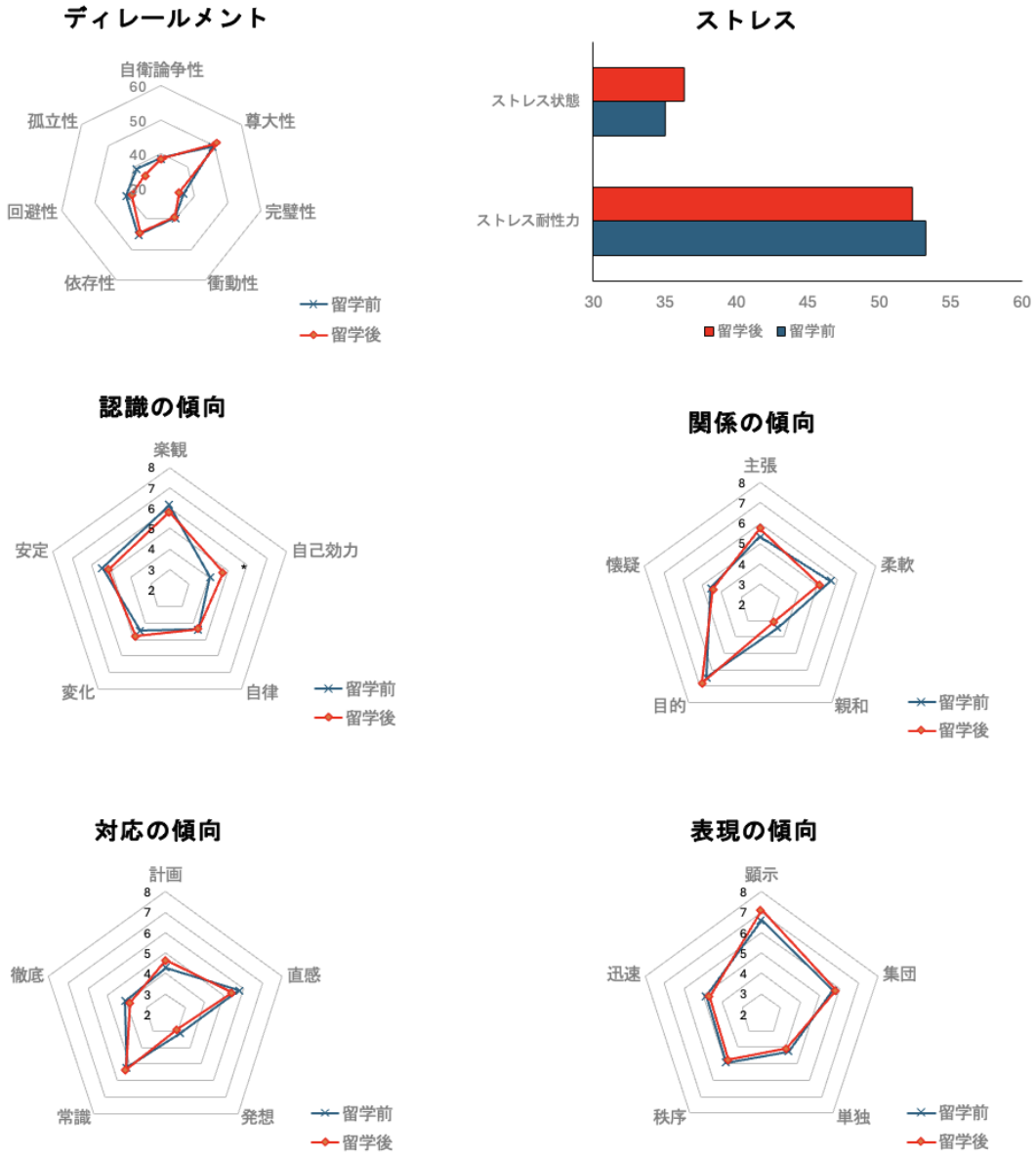
注: **は 1%水準，*は 5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

表 5　ディレールメント，ストレス，行動特性の変化

	留学前		留学後				
	M	*SD*	*M*	*SD*	*t*		Cohen *d*
ディレールメント							
自衛論争性	38.79	8.80	38.69	8.47	-0.09		0.01
尊大性	49.54	7.23	51.13	7.11	1.69		0.22
完璧性	36.69	9.11	35.54	9.31	-0.95		0.12
衝動性	39.64	9.39	39.19	8.30	-0.39		0.05
依存性	45.35	8.63	44.46	8.86	-0.78		0.10
回避性	40.46	7.73	38.72	9.08	-1.58		0.21
孤立性	39.09	12.24	36.03	12.86	-1.86		0.24
ストレス							
ストレス状態	36.39	5.50	35.04	5.70	-1.83		0.24
ストレス耐性力	52.37	8.97	53.28	9.70	0.74		0.10
行動特性プロフィール							
認識の傾向							
楽観	6.16	2.08	5.81	2.30	-1.22		0.16
自己効力	4.07	2.03	4.75	2.12	2.46	*	0.32
自律	4.40	1.93	4.38	1.74	-0.08		0.01
変化	4.49	1.96	4.80	2.01	1.22		0.16
安定	5.47	1.96	5.16	2.01	-1.22		0.16
関係の傾向							
主張	5.35	2.27	5.74	2.25	1.34		0.18
柔軟	5.66	2.29	5.10	2.11	-1.94		0.25
親和	3.46	2.01	3.12	1.95	-1.32		0.17
目的	6.50	2.02	6.84	1.95	1.31		0.17
懐疑	4.54	2.28	4.43	2.36	-0.38		0.05
対応の傾向							
計画	4.28	2.03	4.63	1.84	1.37		0.18
直感	5.76	2.03	5.41	1.84	-1.37		0.18
発想	3.15	1.79	2.94	2.00	-0.85		0.11
常識	5.24	1.94	5.32	1.93	0.33		0.04
徹底	4.06	2.06	3.83	2.14	-0.82		0.11
表現の傾向							
顕示	6.62	1.91	7.08	1.95	1.85		0.24
集団	5.69	2.41	5.84	2.38	0.49		0.06
単独	4.25	2.41	4.10	2.38	-0.49		0.06
秩序	4.96	2.13	4.74	2.05	-0.80		0.10
迅速	4.83	2.14	4.68	1.94	-0.56		0.07

注:*は 5%水準で有意であることを示す.

図 2　ディレールメント，ストレス，行動特性の変化を表すレーダーチャート



注: *は 5%水準で有意であることを示す..

表 6　能力向上の目標設定の有無によるコミュニケーション能力の変化

	目標設定	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
傾聴力	あり (*n*=18)	41.78	8.56	45.38	8.19	2.23	3.60
	なし (*n*=98)	45.27	8.91	46.65	8.25		1.38
共感力	あり (*n*=9)	39.79	11.87	41.16	7.47	1.59	1.37
	なし (*n*=107)	47.77	9.46	47.55	10.07		-0.22
受容力	あり (*n*=18)	39.64	8.54	46.72	8.94	6.76 *	7.08 **
	なし (*n*=98)	44.36	7.79	44.68	8.58		0.32
自己開示力	あり (*n*=16)	52.18	10.42	56.88	8.65	1.43	4.70
	なし (*n*=100)	56.15	10.26	59.42	10.85		3.27 **
主張力	あり (*n*=48)	44.49	10.17	50.35	12.39	3.46	5.86 **
	なし (*n*=68)	50.57	10.68	52.97	11.10		2.40
プレゼンテーション力	あり (*n*=7)	48.36	3.75	58.28	10.80	6.78	9.92
	なし (*n*=109)	51.79	8.99	54.94	9.17		3.14 **

注: **は 1%水準, *は 5%水準で有意であることを示す. 留学の効果の差は, 該当能力を目標設定した群としなかった群を比較して, 両群の留学の効果が異なるかを調べたものである.